2016 年 1 月 28 日
株式会社オリエンタルランド

「2016 年 3 月期 第 3 四半期決算 電話説明会　説明概要

「2016 年 3 月期　第 3 四半期決算 補足資料」をもとに説明いたしましたので併せてご覧ください。

お手元にない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。

http://www.olc.co.jp/ir

・実施日　2016 年 1 月 28 日（木）
・説明者　取締役 常務執行役員（経理部担当役員）　横田 明宜

【連結業績】
2016 年 3 月期第 3 四半期決算の実績について説明いたします。
お手元の補足資料 1 ページ左側の上段の四半期連結損益計算書をご覧下さい。

当四半期は、前年同期と比較して、
売上高は、23 億円、0.7%増の 3,544 億円、
営業利益は、7 億円、0.9%増の 921 億円、
経常利益は、10 億円、1.1%増の 936 億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、24 億円、4.0%増の 633 億円となりました。

【セグメント別の売上高】
セグメント別の売上高とその増減要因を説明いたします。
資料右側上段【A.売上高】の表「(1) 売上高の状況」をご覧下さい。

①テーマパーク事業
売上高は、ゲスト 1 人当たり売上高の増加により、前年同期比 5 億円、0.2%増の 2,929 億円となりました。

入園者数およびゲスト 1 人当たり売上高については、1 つ下の表「(2) テーマパーク関連情報」をご覧下さい。

入園者数は、2014 年 5 月 29 日にスタートした「ワンス・アポン・ア・タイム」が 2 年目となったことおよび悪天候などの影響により、前年同期を下回りました。

ゲスト 1 人当たり売上高は、今年度 4 月 1 日に実施したチケット価格改定により、チケット収入が増加したことにより、前年同期を上回りました。

商品販売収入および飲食販売収入は、それぞれ前年同期比で若干の増減がありました。

②ホテル事業

売上高は、平均客室単価の増加により、前年同期比 15 億円、3.4%増の 481 億円となりました。

なお、各ホテルの客室稼働率・平均客室単価の前年同期差異につきましては、資料右側中段の「(3)ホテル関連情報」に記載しております。

③その他の事業

売上高は、前年同期比 2 億円、1.5%増の 134 億円となりました。

【セグメント別営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。

資料右側の中段【B.営業利益】の表をご覧下さい。

④テーマパーク事業

営業利益は、コストが増加した一方で、チケット収入を中心にゲスト 1 人当たり売上高が増加したことにより、前年同期比 67 百万円増の 783 億円となりました。

コストについて説明します。商品原価率、飲食原価率が為替の影響などにより増加したことに加えて、減価償却費が 4 億円、大型投資案件に向けた費用などの諸経費が 14 億円、増加しました。

一方、人件費が、業績賞与の減少により 14 億円減少しました。

⑤ホテル事業

営業利益は、客室改装に伴う費用が増加した一方で、売上高が増加したことなどから、前年同期比 3 億円増の 118 億円となりました。

⑥その他の事業

営業利益は、売上高の増加に加えて、イクスピアリ事業の費用が減少したことなどから、前年同期比 2 億円増の 17 億円となりました。

【第 3 四半期（累計）実績の推移】

資料左側下段【参考】第 3 四半期累計業績の推移をご覧下さい。

連結の業績について、経年の推移で説明いたします。

左側のグラフ「売上高・営業利益率の推移」をご覧ください。

当第 3 四半期累計の売上高 3,544 億円および営業利益率 26.0%は、前年同期を上回り、東京ディズニーリゾート 30 周年であった 2013 年 12 月期に次いで過去 2 番目の業績となりました。

次に、右側のグラフ「四半期別営業利益の推移」をご覧ください。
当第 3 四半期累計の営業利益 921 億円および当第 3 四半期 3 ヶ月間の営業利益 400 億円についても、前年同期を上回り、過去 2 番目の業績となっています。

【総括】
総括をさせて頂きます。資料右側下段の「総括」をご覧下さい。

対前年同期
当第 3 四半期累計実績を前年同期と比較いたしますと、売上高および各利益は、いずれも上回りました。

・テーマパーク事業の売上高は、2014 年 5 月 29 日にスタートした「ワンス・アポン・ア・タイム」が 2 年目となったことおよび悪天候などの影響によりテーマパーク入園者数が減少したものの、チケット価格改定に伴いゲスト 1 人当たり売上高が増加したことで、増収となりました。

・テーマパーク事業の営業利益は、商品原価率および飲食原価率や、大型投資案件に向けた費用などの諸経費が増加したものの、ゲスト 1 人当たり売上高の増加により増益となりました。

対期初予想
四半期毎の数値は開示していませんが、業績予想と比較いたしますと、売上高は下回ったものの、営業利益は上回りました。

・ゲスト 1 人当たり売上高はほぼ予想通りだったものの、テーマパーク入園者数が若干下回ったことにより、売上高は業績予想を下回りました。

・営業利益は、売上高が減少したものの、テーマパーク事業の諸経費が減少したことやホテル事業の増益により、業績予想を上回りました。

通期業績予想
通期の業績予想についてですが、当四半期はご説明したとおりであったものの、現時点では期初予想を据え置くことといたします。

以上